

トキと共生する里地づくりについて

1. 取組の背景

トキは、かつては全国各地に広く生息していたものの、昭和56年に野生絶滅。平成11年以降、中国より提供された個体（計7羽）をもとにした飼育下での繁殖が順調に進み、平成20年に佐渡島において第1回放鳥を実施。

その後、直近の推定で野生下の生息数が500羽を超えるなど、佐渡島における野生復帰が順調に進んでいることから、次のステージとして佐渡島以外の複数の地域個体群の形成を目指すこととし、昨年度にトキ保護増殖事業計画を変更。

2. 取組の概要

今年度から、本州等においてもトキが定着できるよう、環境省とトキ受入れに意欲のある地方公共団体等が連携しながら、トキと共生する里地づくり（トキの餌場やねぐらの保全）を推進する予定。

「トキと共生する里地づくり取組地域」としては、「将来的なトキの野生復帰を目指し環境整備を進める地域（A地域）」及び「放鳥は行わないものの、飛来したトキが生息できる環境整備を進める地域（B地域）」を選定し、選定された地域間で交流を図りながらトキと共生するための環境整備等を進める。

3. 選定地域及び今後のスケジュール

<選定地域>

トキの野生復帰を目指す里地（A地域）

石川県他9市町、島根県出雲市（2地域）

トキとの共生を目指す里地（B地域）

宮城県登米市、秋田県にかほ市

コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム（茨城県、栃木県、埼玉県及び千葉県の18市町）（3地域）

<継続審議地域>

新潟県他5市町村（1地域）（トキの野生復帰を目指す里地（A地域））

令和4年11月28日 「トキと共生する里地づくりネットワーク協議会」設立

<野生復帰にむけた中長期的なスケジュール>

～令和7年度 トキが生息していくために必要な環境整備の取組等を実施
令和8年度以降 環境整備等の進捗が十分と確認された段階で放鳥を実施